



( ) 浮遊粒子状物質

1.5m高さにおける浮遊粒子状物質の年平均濃度の予測結果( 周辺環境保全施設における最大着地濃度) は、表 6.2.27 に示すとおりである。

建設機械による寄与濃度は0.0003~0.0022mg/m<sup>3</sup>であり、平面コンターは図 6.2.11 に示すとおりである。

これにバックグラウンド濃度を加えた合計は 0.0222~0.0293mg/m<sup>3</sup>、日平均値の2%除外値は0.051~0.061mg/m<sup>3</sup>と予測され、環境基準値を下回ると予測される。

表 6.2.27 浮遊粒子状物質の予測結果 ( 周辺環境保全施設における最大着地濃度、1.5m高さ )

予測区間	年平均値 ( mg/m <sup>3</sup> )			日平均値の 2%除外値 ( mg/m <sup>3</sup> )
	寄与濃度	バックグラ ウンド濃度	+ 環境濃度	
北梅田立坑	0.0005	0.022	0.0225	0.051
国道2号開削部	0.0018	0.023	0.0250	0.055
中之島駅	0.0022	0.027	0.0293	0.061
西本町駅	0.0013	0.027	0.0278	0.059
J R 難波駅取付部	0.0003	0.026	0.0263	0.056
南海新難波駅立坑	0.0015	0.026	0.0275	0.058
開削トンネル部 掘割・擁壁部	0.0012	0.021	0.0222	0.051
高架部	0.0013	0.021	0.0223	0.051

